

## 有限だからこそ

駅のホームや車内広告などで、紅葉の風景写真を目にすることが増えてきた。「きれいだなあ。」と思う。以前はなんとも思わない時期もあった。最近、成すべきことをし終えて、これから散っていく枯葉に、敬意すら覚える(大袈裟か)。



もともと無粋な人間で、春の桜の花でさえ、以前はそれほど関心がなかった。周りの大人たち、テレビ・ラジオの開花予報など、なぜそんなにさわぐのか不思議でもあった。花があつという間にその姿を消してしまうこと、花の盛り过后で、葉が出てきてしまうことなどを知ってからは、蕾が膨らみ始めると、もうそわそわするようになった。

理由を知ってから、また、意味が後付けできてから、見方、見え方、感じ方が変わることがある。小学校の何年生だったろうか。セミの生態を知ったときはちよつとした衝撃だった。暗い土の中で、もぞもぞと8年(またはそれ以上)も暮らして、地上に出て空を飛びまわれるのが、たったの7日間なんて。

「今鳴いているセミは自分より年上なのかも」と思ったりした。それ以来、セミだけは捕れなくなった。

さて、これからの時期、中学3年生は、塾での公開模試、会場模擬、学校での中間テスト・期末テスト、実力テストと、模試・テストの回数が増える。

毎年、「こんなに受けられない。」「準備できない。」「解き直しが追いつかない。」という声を聞く。確かに、中間・期末の準備の中、模試を受け、解き直しをするのは大変かもしれない。

模試・模擬の回数が増えるとはどういうことなのか。どんな意味があるのか。答えは簡単だ。本番が近いということだ。本番が近づけば近づくほど、リハーサルの頻度は上がるものだ。



部活などの練習試合もそうだったはず。もう一つ、受験生のみんなに覚えておいてほしいのは、この慌ただしさは本番までの「期間限定」であり、ずっと続くものではない、そして、残された時間には限りがあるということだ。

「本番前の期間限定」という側面から、模試・模擬を見ると、実に練習試合や交流戦に似ている。本番から離れていて、比較的まだ猶予のある練習試合では、弱点を発見したあと、長期的・建設的に対策が組める。いろいろな戦術を試すことができるし、練習メニューも変えられる。だが、本番が

近づけば近づくほど、シビアになる。大会前、本番前の国際Aマッチ、〇〇カップともなると、戦術はもう変えられない。戦術の仕上がり具合・完成度を見るわけだし、どの選手を入れて、誰を外すかの代表選考まで兼ねるわけだ(いつの間にかサッカーの話に変わっている)。

期間限定であること、残された時間が有限であることは事実であり、シビアだ。だが、有限だからこそ、本番という終わり(区切りと言うべきか)が見えるからこそ、計画が立てられる、真剣になれる、スパートもかけられるのだ。

有限性は可能性でもある。(五日市)

## サポーター

●私は、知る人ぞ知る(当たり前だ)ジェフのサポーターだ。Jリーグは土曜日に試合が多いので、仕事上あまりスタジアムには行けないのだが、たまに行くと、ゴール裏(応援団の集まっている一番盛り上がっているところ)で、90分間大声で叫んでいる。サポーターとは不思議な存在だ。なぜサポーターになったのか?地元のチームだからだ。それ以上でも以下でもない。特別な理由はない。昔熱狂的な巨人ファンがいたという話をよく聞いたことがあり、なんでもそこまですか不思議に思っていたのだが、いつの間にか自分もその仲間入りしている。

●今、ジェフはオシム監督が抜け、チームの勢いも落ち連敗中だ。サポーターの中には選手の不甲斐無い姿にヤジを飛ばす人もいるが、それでも私たちは選手・チームを信じて応援し続ける。それにしてもオシム監督の存在は大きかったのかとも思う。



●さて、こんなことを考えていると私たちと君たちの関係も似たところがあると思う。もちろん君たちが選手で、私たちがサポーターだ。君たちに直接アドバイスしたり、指導したりするので監督の役割も多いが、結局選手は君たちだ。われわれはサポーターであり、監督であるのだ。戦うのは君たち自身なのだ。われわれは計画的な練習方法、様々なアドバイスを伝え、そして君たちを信じて応援し続けるのだ。

●今回中三生は、夏期講習という長期の合宿を乗り切った。集中徹底講座を受講した生徒は、夏休み約四〇日間で三〇日間も塾に来て勉強したのだ。連続した休みはお盆の三日間しかなかった。受験生だから当たり前だという親もいるだろう。しかし、私が中学生の頃を思い出してみても、君たちはかなり頑張った。塾があるから頑張ったという部分もあるだろうが、それにしてもよくやった。ほめるのは早い気がするが、よく頑張った。

●しかし、その頑張りがすでに結果に現れている人と、まだ出ていない人がいるのだ。

う。出ている人は、そのまま入試まで続けて欲しい。出ていない人は原因を考える必要がある。一つには結果が出るまでには時間がかかるということだ。適切な方法で続けていても結果が出るには、二〜三ヶ月かかる場合も多い。しかし、自分の学習方法が適切かどうかのチェックが必要だ。きちんと考えて解いているか？ 機械的に作業として処理していないか？ 一問一問大事にしているか？ 答え合わせのとき解説を読んでいるか？ できなかった問題はチェックを入れて必ず解き直しをしているか？ 当然できてなかった問題をコソコソ直してできたことにしているような人は、まったく力がつかないぞ。学力をつけるためには、できてもできなくてもとにかく考えることが大切だ。分からない問題をすぐあきらめてないか？ 分からない問題があったときすぐ答えを見て、赤で答え書いておしまい。こんな勉強方法では、何日間勉強しようと、何時間頑張ろうと、時間だけが過ぎ去って力は全然付いていなかった、なんてことにもなりかねない。



●君たちは、頑張る力がある。それはもう証明済みだ。あとはその頑張りをキチンと力に変える方法を身に付け入試まで続けてもらいたいと思う。

●不安もあると思うが、君たちの周りには仲間がいて、君たちの頑張りを信じ、成果を信じ続けている親御さん、そして我々サ

## 親子の関係(59)

(松永)

ポーターがいる、あと半年ともに頑張ろう。

●前号で勉強ができるようになるためには、「学習習慣が身につけていること」と「そのことに価値をおいていること」の2つが必要であると述べた。この2つがそろっていれば、受験である程度の結果を期待できるが、どちらかが欠けていると、かなり苦しくなる。両方欠けているとなれば、これはほぼ絶望的である。

●では、前号で触れたあの男性はどうだったのか。本人には申し訳ないが、学習習慣も身につかず、いわゆる勉強にもほとんど価値はおいていなかったと思う。ただ、彼は自分が好きな学問に出会った。彼には、とにかくその学問が面白かった。寝食を忘れてうちこめるほどの感動や発見があったのだ。つまり、彼は勉強一般ではなくその学問にのみ価値を見出し、習慣とよぶのは失礼な、ある意味では「生きること」その学問をすること「楽しむこと」というべき境地に至ったのだ。

●私は、彼が研究者として更に充実した人生を歩いてくれることを願う。そうしてくれたら、ちよつとうれしいではないか。もし、彼が世紀の大発見でもしたら、少しだけ自慢させてもらおうぞ。

●とにかく、ここで忘れてならないのは、彼は例外中の例外であるということだ。自分が、自分の子供がそれに該当するかもしれないことを期待するのは、余りにもリスクが大きすぎる。そこで、一般的には、「学習習慣を身につけること」と「価値をおけること」を指すべきである。そして、私達の仕事は、おあずかりしている生徒達に、まさにこの2つを達成してもらうことが第一に求められることとなる。(この2つについては、またあらためて詳述したい。)

●さて、実際に生活していると、「勉強ができること」以外に「頭のよさ」というのがあることに気付かされる。また、こうして、原稿を書きながら、講師や事務の人に意見を求めると、いろんな「頭のよさ」が示される。そして、不思議なことに、誰も「勉強ができること」とか「学歴があること」などには一切触れない。これは非常に興味深いことである。



●彼らが提示してくれたものを列挙してみよう。

- ①空気が読める②気転がきく③情報把握力
- ④先のことを考えて行動できる⑤生活力
- ⑥生きていく知恵⑦自分も周りの人も幸せにできる 等。

●どうだろう。かなりいい線をいっているのではないか。空気がよめなくて、気転がきかなくて、情報がつかめなくて、先のこと

とを考えられず、生活力がなくて、生きていく知恵もなく、自分も周りの人も幸せにできない高学歴の人というのが、世の中に数えきれないほどいるのではないか。あなたの周りにもひよつとしたらあなた自身が。いやいや、ひよつとしてこの私も…。

●生徒達を、勉強ができるようにしてやりたいのはやまやまだが、この①〜⑦で弱点をかかえている生徒をみると、ふと考え込んでしまう。どうしたものか。学力に関係なく、実はけっこういるのだ。ほんとうにどうしたものか。(以下次号) (小林)

☆今号では教育名言紹介はお休みです。

### 創学舎の本

★受験生は読め！(合格のヒケツがココにある)

●勉強法・精神面のケアなどについて、創学舎講師陣が書いたものです。

●非売品です。希望者には無料で差し上げます。

★愛の壁 — お父さんお母さんあなたの愛は子供に届いていますか (著者 小林 憲右)

●創学舎ニュースの編集責任者 小林が二十年間書き続けてきた記事の中から抜粋・加筆したものです。

●浅野書店・ブックス鈴木・新星堂他全国書店で発売中。

☆卒業や転校等で創学舎を離れる方にも、ご希望があれば創学舎ニュースを無料でお送り致します。在籍していた教室までご連絡下さい。